

住吉市民病院跡地に整備する新病院等に関する基本構想(案)

基本理念

- ・弘済院が培ってきた認知症医療・介護機能を継承するとともに、認知症患者の身体合併症医療の充実を図る。
- ・大阪市立大学医学部附属病院等との密接な連携のもと、大阪市南部基本保健医療圏における小児・周産期医療の充実を図る。
- ・認知症等にかかる先進的な研究及び医療・介護等の人材の育成を推進する。
- ・健康、医療、福祉施策と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らせる循環型の仕組みの構築に寄与する。

1 基本方針

(1) 弘済院の認知症医療・介護機能の継承・発展

認知症にかかる専門的な診断を行い、症状に合わせた治療と、引き続いて行う認知症のリハビリテーションや活動性を改善するリハビリテーションを実施する病院に、専門的な認知症介護を行う介護老人保健施設を併設し、医療と介護の一体的な運営により、院内循環型システムを構築する。

(2) 大阪市南部基本保健医療圏における小児・周産期医療の充実

成育医療向上のため、小児の急性期医療と慢性期医療(在宅医療)のインターフェース機能の充実を目指して集中治療後の受け皿機能を追求するとともに、女性の生涯にわたる健康を学術的・医学的に追求し、市民の医療向上に貢献する。

(3) 認知症等に関する研究機能の推進

先進的な認知症研究に取り組み、研究成果を「認知症をささえるまち大阪宣言」の実現に向けた本市の各施策に反映するとともに、大阪の健康長寿延伸や、今後見込まれる本市の医療・介護費等の社会保障費の増加抑制に貢献させていく。

(4) 地域連携と人材育成の推進

認知症医療の中核病院となる新病院と併設老健とが協働し、地域医療機関や福祉施設等との適切な役割分担の下に連携を強化し、循環型の医療・介護システムの確立に寄与する。

医療・看護・介護・福祉に携わる人材を育成し、地域の介護力向上を図る。

2 新施設の機能

(1) 認知症医療機能

認知症疾患医療センターの機能を担う

【診療科】神経精神科、神経内科、整形外科等15診療科

【病床】120床(3病棟)

- ・もの忘れ病棟: BPSDの顕著な人等に対応
- ・神経内科・内科病棟: 認知症の鑑別診断や高齢者に好発する内科系疾患等に対応
- ・長寿医療病棟: 高齢者に好発する骨折や関節症等の外科系疾患等に対応
- ・併設する介護老人保健施設と連携したリハビリテーションの実施により、在宅等への復帰を支援

(2) 認知症介護機能

専門的介護を提供する介護老人保健施設を併設(定員:100人)

- ・新病院との医療・介護連携を図り、切れ目のない治療・リハビリテーションが効果的に行えるよう、新病院の病棟に対応した療養室を設置
- ・病院において急性期症状が寛解した患者を受け入れることにより、継続的に支援
- ・家族も含めた介護者等への在宅復帰に向けた支援

(3) 小児・周産期医療機能

【診療科(外来のみ)】小児科、産婦人科

- ・子どもや介護者等の負担を軽減するため、医療的ケアの簡素化や指導、地域の社会資源の紹介や家族への心理的支援など、在宅医療に必要な支援
- ・妊婦健診や指導は、市大医学部附属病院の急性期医療・分娩機能と連携
- ・健康増進と予防医療の推進を図るための女性がん検診を実施
- ・分娩機能等については、市大医学部附属病院に産科10床の拡充及び新生児室増設により体制を強化

(4) 研究機能(現時点における市大からの提示内容)

- ・認知症及び関連する高齢者医療・介護に関する最先端の研究に、総合大学の強みを活かして異分野で連携・融合することにより、一層革新的な研究に結び付け、認知症の原因究明や予防、治療法の確立等に取り組む
- ・認知症の発症メカニズムの解明による発症予防、進行抑制や新たな治療法の開発等を目指し、脳科学研究、健康長寿研究、看護・介護研究、連携拠点の4分野において研究

(5) 地域連携・人材育成機能等

- ・地域の支援機関と連携し、認知症の容態の変化に応じて切れ目なく、適時・適切に専門医療・介護を提供し、認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるように支援
- ・認知症の症状・程度や合併する身体疾患に応じて、地域の診療所(認知症サポート医等)との連携体制(定期的な外来診療や相談、訪問診療等)を構築
- ・認知症研修・情報センター(仮称)を設置し、地域の医療・看護・福祉に携わる職員を対象とした介護方法等の情報提供や介護技術の実地研修を行うことで人材を育成し、地域の介護力向上を図ることにより、認知症の人や家族(介護者)への支援を重層的に展開

3 新施設の整備

(1) 施設規模

総延床面積 約19,000㎡

- ・病院・介護老人保健施設棟
- ・研究施設棟
- ・小児・周産期棟(今後整備する住之江診療所の建屋を転活用)

(2) 整備スケジュール

2019年度	基本設計
2020年度	実施設計
2021年度	建設着工
2024年度	開設